

国語

令和五年度入学試験問題

受験上の注意

- 一、監督の指示により、受験する科目の解答用紙を使用してください。
- 二、解答用紙に受験番号（算用数字）、氏名、フリガナを記入し、受験番号および該当する試験日をマークしてください。記入については解答用紙の注意事項に従ってください。
- 三、問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
- 四、国語の問題は、選択問題があるので、下記の【表】の指示に従い解答してください。
- 五、国語の問題は、二～三十六ページにあります。試験開始の合図があったら、まずページ数を確認してください。
- 六、試験時間中は、受験票を机上の受験番号の下に呈示しておいてください。
- 七、質問、その他用件があるときは、手を上げて合図してください。
- 八、試験時間中の退場は認めません。
- 九、試験時間は六十分です。
- 十、この問題冊子は持ち帰ってください。

開始の合図があるまで開かないでください

【表】 下記の印に従って解答してください。

○印… 必答 △印… いずれか一つ を解答してください	共通問題	一 (現代文)	二 (現代文)	選択問題	三		
					ア (現代文)	イ (古文)	ウ (漢文)
全学部		○	○		△	△	△

一 次の文章は、治安悪化により退避勧告の出ていたイラクに渡航した日本人がテロ組織の人質にされ、殺害されたという事件を受けて書かれたものである。この文章を読み、後の問に答えなさい。

ある青年Aが、ボランティアとしてイラクへ入国し、反米テロ組織に拘束されたとしよう。彼は、常々、「私は日本政府などというものは信用していない。国家は戦争にカタン(ア)するものであるから、私は国家から自由に生きたい。私は、いわばコスモポリタンとして国境を越えて活動したい。イラクの危険地帯へ入ることは私の自由意思による選択であるから、国家は私の行動にいかなる意味でも関与しないでほしい」と述べていたとしよう。この場合には、この青年自らが自己責任を主張しているわけである。

ではこのときには、「自己責任論」は成り立つのだろうか。この場合の自己責任とは、仮に青年Aが拘束されたとしても、日本政府はいつさい関知しないということである。日本政府は、「本人の意思により、日本政府は今回の事件には関与しない。ご自由に人質を殺害してもらってケツコウ(イ)である」という声明でも発表すればよいのだろうか。

むろんそれは不可能なことだ。⁽¹⁾それこそ日本政府は国際的な嘲笑ちやうしょうを受けるであろう。政府は何らかの形でテロリストと接触しようとするだろうし、交渉しようとするだろう。それは当然のことであって、本人がいかに反国家であり、日本政府に不信感を持つていようと、個人の心情とは無関係に、国家はいわば国家の論理においてある種の行動をとるのである。仮に、テロリストと取引をせず、という立場をとるとしても、それは青年Aを無視することとはまったく違っている。

ではこの事態における、国家の論理とはなんだろうか。それは、国家は国民の生命や財産の安全に対して責任を持つ、という論理にほかならない。これはとりわけ近代国家に関しては、国家もしくはは政府の成立根拠にかかわってくる事柄である。

だから、いかなる心情の持ち主であれ、人質に関しては、可能な限り安全な救出を目指すことになる。テロリストとの交渉や妥協、それに強硬な救出手段もあり得る。これらはいずれも人質の安全を確保するための方策である。

だが、それでは、「テロリストとは妥協せず」という立場は、国民の生命保護という近代国家のAのBではないか、という議論が出てきそうだ。一九七五年の日本赤軍によるマレーシア大使館占拠事件、そして七七年のダッカでの日航機ハイ

ジャック事件では、日本政府はテロリストの要求を呑んだのであった。これは生命第一主義を取る政府からすれば当然ではないか、という議論が出てきそうである。

今回の政府による強硬な姿勢は、これら過去の事件における解決法が「テロに妥協する日本」という国際的非難を呼び寄せたと
いう反省に立っている。⁽³⁾そして今回は強硬姿勢を援護するために「自己責任論」が展開された。

しかし、⁽⁴⁾問題はそれほど単純ではない。政府は、本来は国民の生命・財産に対して責任を負っているからである。それゆえ、政府の強硬姿勢を支持する論理は、「さもなくば国際的非難を浴びる」というようなことではなく、「テロリストとの妥協が連鎖的に同様のテロを生み、それが結果的にいつそう国民の生命や財産を危険に陥れると想定されるから」というものでなければならぬ。こうした予測が成り立つならば、長期的な安全性の観点からすれば、人質の生命の犠牲もやむをえない、ということになるからである。

いずれにせよ、⁽⁵⁾ここでは「自己責任」という概念はさしたる意味を持たない。これらは国民の生命の安全確保の方策にかかわる事柄であり、重要なことは、いくらイラク入国が本人の自由意思に基づいた選択であろうと、国家は介入せざるを得ない、ということだ。人質が殺されれば「自己責任でやむを得ない」などということにはならないのである。

ここで明らかになったことはどういうことであろうか。

そもそも個人が自由な意思によってボランティアとして危険地帯に行くこと自体が、果たして本当に自由を意味しているのだろうか。本人が自由意思で行ったと主張すれば、あとは自己責任として放置しておけばよいのか。

むしろそうではないのである。

C、個人の自由という観念を支えるものは自己責任ではないということだ。普通、「個人が何をしようと、それは個人の自由な選択に任される。ただその結果に対しては個人が責任を持つべきである」といわれる。これが「自由の根拠は自己責任だ」といわれるものである。

D、この人質事件が明らかにしていることは、自由の根拠として、そもそも常に自己責任などという観念が成り立つのか、ということであり、自己責任よりもっと根本的な問題があるということであった。

この場合には、ボランティア活動という文字通りの個人の自発的な選択、個人の自由が唱えられているが、その個人の自由な行動そのものが政府、国家によって支えられているということになる。

そもそも自由な選択が成り立つためには、自由な主体（個人）がいなければならない。その自由な主体の生命や財産を保障するものが近代国家なのである。われわれは、近代の国民国家というものを、そのようなものとして構成したのであった。だからこそまた、近代国家は、正当な理由なしに個人の生命や財産を意のままに扱うことは許されないのである。

国家があつてはじめて自由な個人という主体があり得るといふ、考えてみれば当然の事実には、人質事件は改めてわれわれの眼を向けることになった。しかし多くの場合、このことは事態の背後に隠されている。普通、われわれは「自由な個人」から出発する。「自由な個人」から出発すれば、国家はそれに対する制約としてしか理解されないだろう。こうして、「権力を行使する国家」に對抗する「自由な個人」という図式が出てくる。

確かにこの図式が妥当する局面もしばしば存在する。しかしより根底にあるものは、「自由な個人」を支える「権力を持った国家」なのである。この後者をとりわけ注意しておきたいのは、「権力」vs.「自由」や、「国家」vs.「個人」という図式はあまりにわかりやすいのに対して、「権力」や「国家」が「自由」や「個人」を支えているという側面はなかなか見えにくいからだ。

われわれの意識はどうしても自明に思われる「個人」から出発する。そうすると、そもそも「個人の自由」が実際にはいかなる条件のもとで成立しているのか、という自らの足元に目をやるのが難しくなってしまう。

（佐伯啓思『自由とは何か 「自己責任論」から「理由なき殺人」まで』問題作成上、一部を改変した）

問一 傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 、(イ) 。

(ア) カタン

① 土地をタンポに金を借りる

② 学問をタンキユウする

③ このグラフは現状をタンテキに表している

④ 卒業に必要なタンイを取得する

⑤ 私はとてもタンキだ

(イ) ケツコウ

① 失言に対してコウギする

② 資格をとるためにコウシユウを受ける

③ よりよい方法をコウアンする

④ 新しいシステムをコウチクする

⑤ あの人のコウマンな態度に我慢できない

問二 傍線部分(1)「それこそ日本政府は国際的な嘲笑を受けるであろう」と筆者が主張する理由として、最も適当なものの一つを選び、マークしなさい。解答番号は 。

① 国家が国民を信用していないから

② 国民が国家への不信感を明らかにしているから

③ 近代国家としての責任を果たしていないから

④ 結果として、テロリストに屈したことになるから

⑤ テロリストに対する弱腰な態度は、国際的な安全を損なうから

問三 傍線部分(2)と(3)は、同じ「強硬な」でも意味が異なる。それぞれの意味として、本文の内容に合致する最も適当な組み合わせ

を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① (2) 主張を曲げない (3) 強引な
- ② (2) 実力行使による (3) 妥協しない
- ③ (2) 確実な (3) 手段を選ばない
- ④ (2) 厳格な (3) 交渉しない
- ⑤ (2) 強気な (3) 硬直的な

問四 空欄A、Bに入る語の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① A 論理 B 追求
- ② A 役割 B 貫徹
- ③ A 理念 B 実現
- ④ A 矛盾 B 解消
- ⑤ A 責務 B 放棄

問五 傍線部分(4)「問題はそれほど単純ではない」と筆者が主張する理由として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。

解答番号は 。

- ① 「テロリストとは妥協せず」という国家の方針は、個人の行動を制限するものではないから
- ② 「テロリストとは妥協せず」という立場を貫いたとしても、国際的な評価が変わるわけではないから
- ③ 「テロリストとは妥協せず」の議論は、国民の犠牲を想定したものではないから
- ④ 「テロリストとは妥協せず」の根拠として世論が示す自己責任論は、国家の論理と相容れないから
- ⑤ 「テロリストとは妥協せず」という理念と国民の安全確保は、背反するものであるから

問六 傍線部分(5)「自己責任」という概念はさしたる意味を持たない」の理由として、最も適当なものを一つ選び、マークし

なさい。解答番号は 。

- ① 個人の選択とは関係なく、国家には国民を守る義務があるから
- ② テロリストの犠牲になることは、問題の解決方法として適切ではないから
- ③ 長期的な安全保障の視点に立てば、個人の信念で対応できる問題ではないから
- ④ そもそも国際関係の分野は、自己責任論の範囲外だから
- ⑤ 自己責任論を展開しても、テロリストに屈したという事実は変わらないから

問七 空欄C、Dに入る語の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① C しかるに D 例えるならば
- ② C 裏を返せば D 同様に
- ③ C ところが D 逆説的に
- ④ C ただし D それにも関わらず
- ⑤ C 言い換えると D しかし

問八 傍線部分(6)「保障」の例文として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 事故の損害は、加害者がホシヨウすべきだ
- ② 自社製品の品質をホシヨウする
- ③ 借金のホシヨウ人になる
- ④ 年金だけでは、老後の生活をホシヨウできない
- ⑤ 彼の人柄については、私がホシヨウする

問九 傍線部分(7)「それに対する制約」とあるが、具体例として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

10。

- ① テニスの試合観戦では、ラリー中に声を出してはいけない
- ② 学校の近くでは、パチンコ店を営業することができない
- ③ 借りた金は返さなければならない
- ④ 電車の中で騒いではいけない
- ⑤ 病気になったので、医師から喫煙を禁止されている

問十 本文の内容に合致しないものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 11。

- ① 国家の方針に反する行動をとる者であっても、国家は守らなければならない
- ② 個人の自由は、国家に守られることではじめて実現できるものである
- ③ 個人の自由を行使するのであれば、その結果について責任をもたなければならない
- ④ 国家権力が個人の自由を制限する場合もある
- ⑤ 自己責任論を展開しても、国家の責任が減免されるわけではない

二 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

(注) インゴルドは、『ライフ・オブ・ラインズ』という本で、⁽¹⁾これまでの一般的な学校の教育と、彼が考える教育とを明確に区別しています。ふつう教育とは、学習者の頭のなかにあらたな知識を入れ込むことだと思われています。A、彼はそうではなく

て、教育とは学ぶ人を生きられている世界それ自体へと導き出すことだと書いています。【I】

学校教育で教えられ、覚えるべきとされている知識は、あらかじめ定められています。日本でもそうですが、多くは国が決められています。でも、それはインゴルドに言わせれば、ある社会が定めるルールや望ましいとされている秩序といった「意図にもとづく世界」に引っぱり込んでいるに過ぎないのです。【II】

インゴルドが人類学の教育的な潜在力を考えるときに想定しているのは、その人の生きている現実から離れた一般的な知識を頭のなかに詰め込むのではなく、あくまで個別具体的な経験の世界へと導き出すような教育です。【III】そこで必要なのが、知識で武装するのではなく、目の前に生じている経験の世界に慎重に注意を払うための方法です。それを説明するために、インゴルドは、「迷宮」^{ラビリス}と「迷路」^{メイズ}というたとえを使っています。そのふたつは違うのでしょうか？

わかりやすい「迷宮」のイメージとして、インゴルドは、登下校時の子どもたちの歩みを例にあげています。子どもたちは、通路を俯瞰的にみて目的地への最短ルートを進むのではなく、驚きと発見に満ちた曲がりくねりとしてとらえて歩いているはずだと。

最近の日本の小学校は通学路が決められていて、そこからはずれたり、道草をしたりしてはいけな、と指導されることも多いのですが、子どもは本来、大人たちが定めたルートをそれと道草をするのが大好きです。

一方、都市で働いている大人たちは、ある地点から目的地に向けて、ナビに従って最短ルートを進むように歩きます。そこであられる道が「迷路」です。目的地に速やかに到達することしか頭になく、誰かに話しかけられて足が止まったり、ルートとは違う道に入り込んでしまったりすること、いずれもある種の「失敗」⁽²⁾として経験されます。

迷路を進むとき、私たちはゴールにたどり着くという意図をもって進みます。⁽³⁾ 意図が先にあって行動はその結果に過ぎません。それはあらかじめ意図され、決められた知識を覚えるのと似ています。覚えることが目的であって、できれば最短で簡単に覚えられればそれにこしたことはありません。本来は、最短ルート以外にもいろんな道の選び方があるわけですが、その複数の選択肢は、いずれも目的地にたどり着くという目的から逸れるという意味で、迷路の「行き止まり」と考えられてしまいます。

「B」の道をたどる子どもたちは、たとえば道に不思議な虫がいれば、足を止め、じっとそれを観察するでしょう。そうやってその虫を追いかけているうちに、脇道に入り込むかもしれません。その瞬間、子どもたちにとって目的地である「学校」や「家」にたどり着くことは頭から消えています。Cを進む大人たちが目的地に向かうこと以外に関心を払わず、行先以外は視界にも入らなくなるのとは対照的です。

インゴルドは、そういう意味で、Dが世界に対して開かれているのに対して、Eは閉じている、と書いています。迷路を進むとき、できれば最短で目的地に到達したいので、その途中で起きる出来事は、すべて余計なことだし、ないほうがよいものになります。そのとき、⁽⁴⁾迷路の歩行者は世界にとって存在しないも同然なのだ、とインゴルドは言います。【IV】

これを読んだとき、私は日本の都会の通勤電車のことを思い浮かべました。通勤電車が毎日楽しいという人はめったにいないでしょう。電車のなかでは、みんな携帯を見つめるばかりで、周囲に注意を払ったり、隣の人とおしゃべりを楽しんだりする乗客はほとんどいません。ぎゅうぎゅうの満員電車ならなおさらそうです。一刻も早く目的地に着いてほしいと、外の世界への意識や感覚を麻痺させて、じっと自分の殻に閉じこもってその時間が過ぎ去るのをこらえる。そのとき、「わたし」という存在は世界に対して閉じていて、存在そのものが世界から失われていると言えるかもしれません。

寄り道をしながら、周囲のことに注意を払い、感覚を研ぎすまして驚きと発見のプロセスを楽しんでいる子どもたちと、なんと違うことか、ちよつと目眩まいがするくらいの距離です。

インゴルドは、迷宮の歩みは、目的地にたどり着こうといった「F」にもとづくのではなく、たえまない周囲の世界への「G」にもとづいている、と書いています。そうやって自分の周りに注意を払いながら歩む者は、世界と対話し、影響を与

え合い、自分も周囲も少しずつ変化させていきます。【H】、世界のなかに確実に存在しているのです。【V】

ちよつと抽象的な書き方なのですが、インゴルドが迷宮と迷路の対比から言おうとしている違いは、ぼんやりとわかると思いますが。

学校教育が意図をもってあらかじめ用意された「知識」を教え込むことだとしたら、どうやって生きていくか、その歩みのなかでそれぞれが自分や周囲のことに目を向け、その観察と対話をとおして、生き抜く方法を見いだしていくことが「知恵」なのです。

(中略)

自分の知っている知識をひけらかしたり、その優位さを振りかざしたりする人は、知識をどこか違う場所から収集して、あてはめることばかりに夢中になるものです。自分が直面している現実をちゃんと見ないまま、自分のそばにいる他者やその場から学ぶことがあるとは思ってもいないのです。

それに対して、インゴルドが考える人類学的な「知恵」とは、自分の目の前の現実や周囲の人びとをしっかりと観察し、その動きにツイジュウ⁽⁷⁾しながら世界を把握する方法です。目的地に一足飛びにたどり着くことを目指すのではなく、どうしたらうまくやれるのか、現実や他者との調和の道を慎重にタンサク⁽¹⁾しながら進んでいく歩みなのです。

(松村圭一郎『これからの大学』問題作成上、一部を改変した)

(注) インゴルド イギリスの社会人類学者。一九四八)

問一 傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 、

(イ) 。

(ア) ツイジユウ

① アンジユウの地を求め

② 研究にジユウジする

③ 道路がジユウタイする

④ 相手をカイジユウする

⑤ ガスが室内にジユウマンする

(イ) タンサク

① 文章をテンサクする

② 敵のサクリヤクにはまる

③ 本のサクインをつくる

④ 情報がコウサクする

⑤ サクイ的なものを感じる

問二 空欄A、Hに入る語として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号はA 、H 。

A ① しかし ② だから ③ むしろ ④ しかも ⑤ なお

H ① しかし ② だから ③ むしろ ④ しかも ⑤ なお

問三 傍線部分(1)「これまでの一般的な学校の教育」とあるが、「これまでの一般的な学校の教育」と、インゴルドの言う「迷

路」との共通点として、**不適当なもの**を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① ゴールがあらかじめ定められていること
- ② 常に最短ルートを通るのが望ましいこと
- ③ 私たちの生きる現実から離れていること
- ④ ゴールへの到達にこそ価値があること
- ⑤ 目の前で起きていることに無関心にさせること

問四 傍線部分(2)「失敗」とあるが、迷路の歩行者にとっての「失敗」として、**不適当なもの**を一つ選び、マークしなさい。解

答番号は 。

- ① 回り道
- ② 近道
- ③ 脇道
- ④ 寄り道
- ⑤ 道草

問五 傍線部分(3)「意図が先にあつて行動はその結果に過ぎません」とはどういうことか。最も**適当なもの**を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 意図した通りに行動できたのはたまたまでしかないということ
- ② 意図がなければ行動が生じることもなかったということ
- ③ 行動へと至る過程にどんな意図があつたかが重要だということ
- ④ 意図は行動の影響を全く受けないということ
- ⑤ 意図に反した行動が生じる可能性は全くないということ

問六 空欄B、Eに入る語の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① B 迷宮 C 迷路 D 迷宮 E 迷路
- ② B 迷宮 C 迷路 D 迷路 E 迷宮
- ③ B 迷路 C 迷宮 D 迷路 E 迷宮
- ④ B 迷路 C 迷宮 D 迷宮 E 迷路

問七 傍線部分(4)「迷路の歩行者は世界にとって存在しないも同然なのだ」とあるが、インゴルドはなぜそのように主張するか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 迷路の歩行者は目的地のことしか頭にないので、世界にとっても余計な存在となっているから
- ② 迷路の歩行者は目的地への道中で出会う風景を見ているようで実は見えていないから
- ③ 迷路の歩行者は自分の殻に閉じこもっているため、誰もその存在に気づかないから
- ④ 迷路の歩行者は最短距離で目的地に向かうので、どの場所にもごくわずかの間しかないから
- ⑤ 迷路の歩行者は周囲の人や物に無関心なので、それらと影響を及ぼし合うこともないから

問八 空欄F、Gに入る語の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① F 目的 G 影響
- ② F 詰め込み G 経験
- ③ F 意図 G 注意
- ④ F 知識 G 知恵
- ⑤ F 最短ルート G 変化

問九 この本文には次の一文が欠落している。本文中の【Ⅰ】～【Ⅴ】のどの箇所にも補えばよいか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

そこでの「世界」とは、それぞれの生きている文脈に関係なく、一律に誰もが知っておくべきものと定められた知識で構成されている、架空の「世界」です。

- ① 【Ⅰ】 ② 【Ⅱ】 ③ 【Ⅲ】 ④ 【Ⅳ】 ⑤ 【Ⅴ】

問十 本文の内容に合致するものを二つ選び、マークしなさい。解答番号は (解答欄一行に二つマークすること)。

- ① 迷路の歩行者が「行き止まり」に出会うのは、目的地のことを一時的に忘れてしまったときである
- ② 一般的な学校教育は決められた知識を教えるものであり、それは知識による武装の原因となる
- ③ インゴルドの考える迷宮と迷路の違いは、歩行者が目的地から離れることを楽しめるかどうかにある
- ④ 大人が世界に対して閉じられた存在であるのに対し、子どもは世界に対して開かれた存在である
- ⑤ 人類的な教育が目指すのは、自分の周囲の他者や現実から学ぶ方法を身につけることである

以降は選択問題です。表紙の【表】の指示に従っていずれか一つを選択し解答してください。
問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
選択問題を二つ以上解答した場合、得点にはなりませんので十分注意してください。

三ア 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

今日の言語研究では、どれかひとつの言語を規範にして、その他を分析しようなどとは考えないが、当時の西欧の知識人にとってそのような分析は、至極^{しごく}あたりまえのことであった。ラテン語が普遍言語といわれたゆえんである。もとよりそれが普遍そのものであるはずもなく、あくまで西欧の、そしてキリスト教的な思考の産物にほかならない。けれども、彼らが普遍を熱狂的といってよいほどに志向、希求したこともまた事実である。それは信仰に支えられたもの、いや信仰そのものであったとさえいえる。

大航海時代のカトリック宣教師たちは、伝道に赴いたさまざまな土地のことにラテン語の範疇^{(注)ちゆう}をあてがって文法書を書いた。それは、先住民との意思疎通や説教など布教活動を行うためといった実用目的以上の意味をもっていた。新大陸に顕著⁽¹⁾なように、布教の地で宣教師たちを待っていたのは、バベルの塔の混乱もかくやというほど、多様かつ複雑に分裂したことばであった。「分裂」というのは西欧人の視点からの発言であったが、多言語状態にあることに変わりはない⁽²⁾。この問題を解決するために、宣教師たちは任意にいくつかのことばを選び、それを共通語として^(ア)フキウウさせようという言語政策を行っている。【I】この共通語による言語的統一を図るときに有用だったのが、ラテン語文法の枠組みによって書かれた現地語の文法書だったのである。

宣教師たちは文字をもたない先住民のことばをアルファベットで固定し、キリスト教の教義にふさわしいことばに磨き上げることを目指していた。そして文字と文法によって輪郭が与えられてできあがった「言語」の学習は、宣教師だけでなく、先住民たちにも課せられたのである。任意に選択されたひとつのことばを固定して、ひとつの権威ある「言語」に仕立て上げる。それが文法の役割であり、仕立て上げられた「言語」の権威を保證するのが、「普遍」言語たるラテン語の範例であった。【II】

同時代の新大陸やフィリピンなどでカトリック宣教師たちの展開した言語政策を背景に据えると、ロドリゲスが日本語の文法書を書いた意味がよく見えてくる。だが日本の場合、⁽³⁾少しばかり他の地域と事情が違っていた。彼らは「普遍」文法をあてがって、日本のことばに輪郭を与えたけれども、⁽³⁾文法書のほうは外国人宣教師の日本語学習に使用されるにとどまった。新大陸のような言語政策は行われなかったのである。

日本が他の地域と大きく異なっていたのは、都ことばが規範的なことばとして認められていたこと、そして書きことばの長い歴史があったことである。文字をもたない先住民の「野蛮な」ことばを磨き上げなければならなかった他の地域とは異なり、優雅で権威のあることばはもとも存在していたので、あとはそれをラテン語文法の範例にもとづいて記述すればよかった。【III】

キリスト教の禁制など外的な事情もあって、ロドリゲスの『日本文典』が後世に影響を与えることはなかった。しかし、あることばに輪郭を与え、「言語」としてのすがたを現出させるには、体系的・合理的な思考の産物である「文法」が必要であったことは確認できる。幕末から明治にかけての洋学者たちが、西欧語文法の「普遍」という鑄型に日本語を流し込んだのもゆえなしとはしないのである。

印刷術は、文法とともにことばに輪郭を与え、ひとつの言語のすがたを現出させるのに大きな役割を果たした。影響力の大きさは、文法以上であったかもしれない。「文法とともに」といったのは、活版印刷術と俗語文法が切っても切れない関係にあるからだ。西欧では一六世紀初頭までに、さまざまな地域で俗語が書きことばとして現れていたが、それは話しことばの変化にしたがって変化を続ける流動的なものであった。印刷術は、流動的な書きことばを固定し、文章語としての地位を確たるものとするのに寄与しただけでなく、そのことばが使用される領域内のよりいっそうの言語的統一を推し進めたのである。この言語的統一は、近代国民国家のようなイデオロギー的衝動によるものではなく、俗語出版市場の開拓を動機とするものであったという。俗語の通用域内でより広汎な読者を得るため、気まぐれな綴り方や方言的言い回しを A して、書物に安定的な性格を与える必要があったということである。【IV】

そして一六世紀以降、西欧では正しい綴り方、正しい語法を示すための正書法書、文法書が数多く出版された。俗語の文法書はラテン語文法の枠組みによって書かれたが、ラテン語のように磨き上げられた文章俗語の台頭が、それまで書きことばの領域で支配的であったラテン語の権威を失墜させることになったのだから、⁽⁵⁾ 皮肉としかいえないようがない。

ところで活版印刷術というと、現代に生きる私たちはマスメディアの原動力、B この技術のもつ複製という機能が存分に発揮された側面に目を向けがちである。それは決して誤りではないのだが、私には、文明史的に人類の発展段階のなかに印刷術の

効用を位置づけた、一面的な見方に思えてならない。大量複製という側面に隠れて見落とされがちな、任意の言語形式の固定と権威化は、活版印刷術の重要なもうひとつの、裏の側面である。任意の言語形式を固定して権威化するということは、そうでないものを **C** することと表裏一体だからである。【V】

活版印刷術と文法はともに手を携えるかのように、大航海時代以降、キリスト教宣教師と印刷人たちによって、西欧の外の世界にまでもたらされた。布教地の多くは無文字社会であった。また通用域の決して広くない、それゆえあまりにも多様な話しことばが、そこにはあった。すでに俗語の書きことばが現れて、潜在的な市場を形成しつつあった西欧のような広汎な読者の獲得を望むべくもなかったのである。新大陸のナワトル語やケチュア語を除けば、先住民言語の類縁性や分布状況、話者人口などはあまり考慮されず、たまたま布教戦略や植民政策の拠点に定められた地域周辺のことばに文字と文法が付与されたというにすぎない。

パラグアイの国語で、スペイン語と並んで公用語に定められているグアラニ語も、そんなことばのひとつであった。グアラニ語が国語になった直接の要因は、近代以降、先住民のことばというもとの文脈から切り離されて、入植した白人と先住民とのあいだの混血の子孫（メスティソ）たちが民族意識のよりどころとして使用しつづけてきたことによるという。もっとも、一七世紀にイエズス会士によって布教と先住民管理の言語として採用されたこと、一八世紀初頭に活版印刷術が導入され「出版語」としての地位を得たこと、という二つのソジ⁽¹⁾がなければ、グアラニ語は民族の独自性を表現する媒体にはなり得なかつたはずだ。またこのことばが「出版語」としての地位を得るにあたって、西欧に見られたような資本主義的動機が大きく関与したとは考えにくい。

D、任意のことばを固定して「言語」としての輪郭を与えろという、印刷術に備わった政治性や権力性が発現した結果ではないかと思う。だがそのいっぽうで、文字で記されることも、文法を与えられることもない、したがって印刷もされなかつた無数のことばが **E** され、消滅していったのだった。

（鈴木広光「立ち現れた「日本語」のすがた」問題作成上、一部を改変した）

（注） 範疇 同質・同類のものがすべて含まれる部門・領域。カテゴリー

問一 傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 、(イ) 。

(ア) フキユウ

① 試験にキユウダイする

② キユウエン物資を届ける

③ アルバイトのキユウジン広告

④ ロウキユウ化した校舎

⑤ 真理をキユウメイする

(イ) ソジ

① 万全のソチをとる

② ソシナを進呈する

③ スバヤい動き

④ センスを開いてあおぐ

⑤ ヒッスの条件

問二 傍線部分(1)「顕著な」の意味はどれか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

① 特有な

② 有名な

③ 明白な

④ 当然な

⑤ 深刻な

問三 傍線部分(2)「この問題」が指す内容はどれか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① どの言語を規範にして、その他の言語を分析すべきかという問題
- ② 伝道に赴いた土地のことにラテン語の範疇をどのようにあてがうかという問題
- ③ 伝道先の人々を相手に、どのようにして意思疎通や説教を行うかという問題
- ④ 布教のために赴いたさまざまな土地のことが多言語状態にあるという問題
- ⑤ 布教先の多言語状態を「分裂」と捉える西欧人の視点に偏りがあるという問題

問四 この本文には次の一文が欠落している。本文中の【Ⅰ】～【Ⅴ】のどの箇所にも補えばよいか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

それは、文法にも通じるものである。

- ① 【Ⅰ】
- ② 【Ⅱ】
- ③ 【Ⅲ】
- ④ 【Ⅳ】
- ⑤ 【Ⅴ】

問五 傍線部分(3)「文法書のほうは外国人宣教師の日本語学習に使用されるにとどまった」とあるが、その理由として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 日本には文字があり、すでに規範的なことばも存在していたため
- ② 日本ではキリスト教の禁教など外的な事情が関わっていたため
- ③ 書きことばがラテン語に劣らぬ「言語」のすがたを現出させていたため
- ④ 輪郭を与えられた優雅な都ことばが権威として認められていたため
- ⑤ 洋学者たちが西欧語文法の「普遍」を鋳型として受け入れていたため

問六 傍線部分(4)「ゆえなしとはしない」とはどのような意味か。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

57。

- ① 不本意なことではない
- ② それなりの訳がある
- ③ 奇妙なことではない
- ④ もっともなことである
- ⑤ 意味のないことではない

問七 空欄A、C、Eには同一の語が入る。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 58。

- ① 修正
- ② 放置
- ③ 統合
- ④ 抽出
- ⑤ 排除

問八 傍線部分(5)「皮肉としかいいようがない」と筆者が述べる理由として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解

答番号は 。

- ① 合理的思考の産物であるラテン語の「普遍」文法の影響力以上に、印刷術の伝播はばがラテン語の権威失墜につながったから
- ② ラテン語による言語的統一の政策を、その俗語が使用される領域内に限ったことがラテン語の権威失墜につながったから
- ③ 俗語が、ラテン語を範例とする体系化によって輪郭を与えられ、出版市場に出回りはじめたことがラテン語の権威失墜につながったから

- ④ 流動的な文章俗語で、ラテン語文法の枠組みを書いた文法書の台頭が、ラテン語の権威失墜につながったから
- ⑤ 流通する書物に安定的な性格を与えるためにラテン語文法に普遍性を与えたことが、ラテン語の権威失墜につながったから

問九 空欄B、Dに入る語として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は B 、D 。

- B ① むしろ ② しかし ③ さらに ④ あるいは ⑤ つまり
- D ① むしろ ② しかし ③ さらに ④ あるいは ⑤ つまり

問十 本文の内容に合致するものを二つ選び、マークしなさい。解答番号は (解答欄一行に二つマークすること)。

- ① 文法と印刷術には、ことばを固定化して「言語」としてのすがたを現出させる政治性や権力性が備わっている
- ② ことばが使用される領域内で言語的統一が推し進められる場合、近代国民国家のイデオロギーが関与することはない
- ③ 多様な話しことばのなかから、ひとつのことばが文字と文法によって権威化されるのは偶然によるところが大きい
- ④ 布教戦略や植民地政策の裏の側面には、俗語出版市場の開拓という西欧の資本主義的動機が隠されている
- ⑤ 流動的に変化しつづけていた話しことばを固定化して言語的統一を実現するには、活版印刷技術が大いに役立った

三イ 次のⅠ、Ⅱの二つの文章を読み、後の問に答えなさい。Ⅰは『平家物語』の一節、ⅡはⅠに引用されている歌謡についての解説文である。

Ⅰ

ひとり参らむは、あまりに物憂しとて、妹の祇女ぎによをも相具あひぐしけり。そのほか白拍子(注1)二人、総じて四人、一つ車に取り乗つて、西八条へぞ参りたる。先まぎき召よされける所へは入れられず、⁽¹⁾はるかに下がりたる所に、^(注3)座敷(注3)しつらうておかれたり。祇王、「こはされば何事さぶらふぞや。我が身にあやまつ事はなけれども、捨てられ奉(ア)るだにあるに、座敷をさへ下げらるることの心憂さよ。いかにせむ」と思ふに、知らせじとおさふる袖のひまよりも、あまりて涙ぞこぼれける。仏御前これを見て、あまりにあはれに思ひければ、「あれはいかに、日ごろ召されぬ所でもさぶらはばこそ、⁽²⁾これへ召されさぶらへかし。さらずはわらはに暇(いしま)をたべ。出でて見参(げんざん)せん」と申しければ、入道(い)(清盛)、「すべてその儀あるまじ」とのたまふ間、力およばで出でざりけり。その後、入道、祇王が心のうちをば知り給はず、⁽³⁾「いかに、その後、何事かある。さては仏御前があまりにつれづれげに見ゆるに、^(注4)今様(いまやう)一つ歌へかし」とのたまへば、祇王、参る程では、ともかうも入道殿の仰せをば背(そむ)くまじと思ひければ、落つる涙を抑へて、今様一つぞ歌うたる。仏も昔は凡夫なり 我らも終(つひ)には仏なり いずれも仏性(ぶつじやう)具せる身を へだつるのみこそ悲しけれと泣く泣く二辺歌うたりければ、その座にいくらもなみる給へる、平家一門の公卿、殿上人、^(オ)諸大夫(しよたいふ)、侍(さむらひ)に至るまで、皆感涙をぞ流されける。

〔平家物語〕 卷一「祇王」

(注1) 白拍子 平安時代から鎌倉時代にかけて流行した歌舞を職業とした女性

(注2) 西八条 平清盛の邸宅。平安京の左京、八条大路北、大宮大路西にあった

(注3) 座敷 座するための敷物

(注4) 今様 平安時代後期に流行した歌謡

II

仏も昔は人なりき 我らも終には仏なり(注1)さんじん 三身さんじん仏性具せる身と 知らざりけるこそあはれなれ(梁塵秘抄・二二二)

【現代語訳】

仏も昔は人間だった。我らも最後には仏に成れるのだ。仏に成るべき性質を本来備えている身だと知らずに、仏道をなおざりにしているのは悲しいことだよ。

【評】

『平家物語』巻一「祇王」の章段には、白拍子の祇王がこの今様を歌い替えた話が見え、よく知られている。祇王は平清盛に愛されて栄華を極めていたが、やがて別の白拍子・仏御前が清盛の寵愛ちやうを得るようになると、屋敷から追い出されてしまう。翌年になって、祇王は突然呼び出され、清盛と仏御前の前で今様を歌うように命ぜられる。祇王が涙ながらに歌ったのは、次のような今様であった。

仏も昔は凡夫なり 我らも終には仏なり いづれも仏性具せる身を へだつるのみこそ悲しけれ

この今様は『梁塵秘抄』二二三番歌の「三身」を **A** と歌い替え、「知らざりけるこそあはれなれ」を「へだつるのみこそ悲しけれ」と歌い替えて、仏道をなおざりにするおろかな人々についての **B** な嘆きを、清盛が自分と仏御前を分け隔てする事への **C** な嘆きに巧みに転換している。(中略)

今様の歌い手には、美しい声で歌う音楽的な技術だけでなく、このように、その場にふさわしく歌い替えられる能力も求められた。臨機応変に歌い替えられる、いわば文学的な力も重視されたのが、今様という歌謡の大きな特徴だったのである。

(植木朝子『梁塵秘抄』問題作成上、一部を改変した)

(注1) 三身 仏の身体についていう三種。法身ほっしん(永遠の真理そのもの)。色も形もない真如そのもの。報身ほうじん(菩薩が誓いを立て、その誓いを完成し

てえた仏身)・応身おうじん(世の人を導くために出現した仏)の三つ

問一

Ⅰの文章の傍線部分(ア)「奉る」、(イ)「申し」、(ウ)「のたまふ」、(エ)「給は」、(オ)「給へ」は誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。ただし、同じ番号を何度使ってもかまわない。解答番号は(ア) 76、

(イ) 77、(ウ) 78、(エ) 79、(オ) 80。

- ① 祇女 ② 祇王 ③ 仏御前 ④ 清盛 ⑤ 平家一門

問二

傍線部分(1)「はるかに下がりたる所に、座敷しつらうておかれたり」は、誰が誰に対してどのような気持ちを抱いていることを表しているか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 81。

- ① 祇王が清盛に対して嫌気がさしている
② 祇王が仏御前に対して嫉妬心を感じている
③ 祇王が祇女に対して申し訳なく思っている
④ 清盛が祇王に対してないがしろにしてもかまわないと思っている
⑤ 清盛が仏御前に対して祇王に負けないでほしいと思っている
⑥ 清盛が祇王に対して愛情が冷めていないことを示そうとしている

問三 傍線部分(2)「これへ召されさぶらへかし」は、仏御前のどのような気持ちを表しているか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 清盛の愛情が祇王に移ってしまうことを警戒する気持ち
- ② 祇王に対する清盛の仕打ちがあまりにひどく、同情する気持ち
- ③ 清盛から自分は愛されなくなってもよいという気持ち
- ④ 清盛に対する祇王の態度が失礼だと非難する気持ち
- ⑤ 祇王の立派な態度に感動して、共感する気持ち
- ⑥ 祇王の嫉妬心を恐れ、恨まれたくないという気持ち

問四 傍線部分(3)「いかに、その後、何事かある。さては仏御前があまりにつれづれげに見ゆるに、今様一つ歌へかし」の発言についての解説として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① この発言は、清盛がかつて寵愛した祇王に対して、今様を歌って現在寵愛する仏御前を慰めよと命じる無神経なもので、権力者である自身に振り回される人に対して無頓着な清盛の姿を表現している
- ② この発言は、清盛が今は愛情が冷めてしまった祇王に対して、今様を歌うことで西八条邸に呼び戻すチャンスを与えようとするもので、権力者として慈悲深い清盛の姿を表現している
- ③ この発言は、祇王が清盛の心情を理解できずに、今様を歌えという命令を承諾するもので、清盛の愛情を取り戻そうとする祇王のけなげな姿を表現している
- ④ この発言は、清盛と祇王の心情を理解できない仏御前が、祇王に今様を歌って清盛を楽しませることを勧めるもので、仏御前の情け深い姿が表現されている
- ⑤ この発言は、祇王の心情を理解できない清盛が、祇王に今様を歌わせることで仏御前との実力差を思い知らせようとするもので、権力者である清盛の非情な姿を表現している

問五 Ⅱの文章の空欄Aに入る最も適当な語句を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 凡夫なり
- ② 仏なり
- ③ いづれも
- ④ 仏性具せる

問六 空欄BとCに入る語の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① B 仏教的 | C 道教的
- ② B 世間的 | C 個別的
- ③ B 現象的 | C 心理的
- ④ B 普遍的 | C 世俗的
- ⑤ B 一般的 | C 個人的

問七 『平家物語』より後の時代に成立したものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 落窪物語
- ② 雨月物語
- ③ 源氏物語
- ④ 伊勢物語
- ⑤ 栄花物語

三ウ 次の文章を読み、後の問に答えなさい（設問の関係上、訓点を省いた部分がある）。

或^(注3)問、「士^(注1)大夫、交際礼与。」曰、「礼也。古者、睦^(注2)隣国^(注2)有^(注2)享礼、有^(注2)私覲^(注3)、士大夫相見^(注4)各有^(注4)所^(注4)贄、郷党亦然、婦人亦然、何可廢也。」曰、「近者^(注3)嚴禁^(注3)之、何也。」曰、「非^(注4)禁^(注4)交際^(注4)、禁^(注4)以交際行賄賂者也。夫無^(注4)縁而交、無^(注4)処^(注4)而饋、其饋也過^(注4)情、謂^(注4)之^(注4)賄^(注4)、可也。豈^(注4)惟^(注4)嚴禁^(注4)即^(注4)不^(注4)禁^(注4)、君子不^(注4)受焉。乃^(注4)若^(注4)宿^(注4)在^(注4)交^(注4)知^(注4)、情猶骨肉、數年不^(注4)見、一飯^(注4)不^(注4)相留^(注4)、人情乎。數千里來、一揖而告別、人情乎。則彼有^(注4)饋遺^(注4)、我有^(注4)贈送^(注4)、皆天理人情之不^(注4)可^(注4)已^(注4)者也。士君子立^(注4)身^(注4)行^(注4)己^(注4)、自^(注4)有^(注4)法度^(注4)。絶^(注4)人^(注4)逃^(注4)世^(注4)、情所^(注4)不^(注4)安^(注4)。余謂^(注4)秉^(注4)大政^(注4)者^(注4)、貴^(注4)持^(注4)平^(注4)、不^(注4)貴^(注4)一^(注4)切^(注4)。持^(注4)平^(注4)則^(注4)有^(注4)節^(注4)、一^(注4)切^(注4)則^(注4)愈^(注4)潰^(注4)。何^(注4)者^(注4)、勢^(注4)不^(注4)能^(注4)也。」

（呂坤『呻吟語』）

(注1) 士大夫 高い志を持つ教養のある人物

(注2) 享礼 使者が相手国に渡す、国家としての正式の贈り物

(注3) 私覲 役人が個人の資格で上司や同僚に面会する

(注4) 贄 初めて会う人に贈る贈り物

(注5) 饋遺 贈り物

(注6) 一切 一律にものごとを処理する

(注7) 勢 物事のなりゆき

問一 傍線部分(1)「何可廢也」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 何事も途中でやめてはならない
- ② 何をやめなければならぬのか
- ③ どうしてやめないでいられようか
- ④ どうしてやめることができようか
- ⑤ どうしてもやめなければならぬのか

問二 傍線部分(2)「禁以交際行賄賂者也」に付ける返り点として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

102。

- ① 禁_下以_二交_一際_一行_甲賄_一賂_一者_上也
- ② 禁_乙以_二交_一際_一行_二賄_一賂_一者_甲也
- ③ 禁_レ以_二交_一際_一行_二賄_一賂_一者_也
- ④ 禁_三以_二交_一際_一行_二賄_一賂_一者_也
- ⑤ 禁_下以_二交_一際_一行_二賄_一賂_一者_上也

問三 傍線部分(3)「賄」とは具体的にどのようなものか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

103。

- ① 遠くから来た友人と、お互いに挨拶をした後に贈り合う贈り物
- ② 親戚友人ではないのに交際を求めようと贈る、道理を超えた贈り物
- ③ 国家間で、使者が交渉を有利にするために相手国に贈る贈り物
- ④ 昔からの知り合いに、特に必要もなく贈る、常識を少し超える程度の贈り物
- ⑤ 近ごろ禁止された、士大夫・村の人たち・女性たちの間で贈り合う贈り物

問四 傍線部分(4)「惟」、(5)「若」の読みとして、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(4)

(5) 105。

- (4) 「惟」 ① これ ② ただ ③ おもう ④ もって ⑤ いえども
- (5) 「若」 ① もし ② これ ③ わかい ④ ごとし ⑤ なんじ

問五 傍線部分(6)「情猶骨肉」の書き下し文として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 106。

- ① 情猶ほ骨肉たりて
- ② 骨肉猶ほ情のごとく
- ③ 情猶ほ骨肉のごとく
- ④ 情は猶ほ骨肉よりすれば
- ⑤ 情をして猶ほ骨肉たらしめて

問六 傍線部分(7)「数千里来、一揖而告别、人情乎」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

107。

- ① 遠く離れたところからやってきた人に、きちんと挨拶をして別れるのは、人としての正しい感情である
- ② 遠く離れたところからやってきた人が、一度挨拶をするだけで別れるのは、人としての自然な感情である
- ③ 遠く離れたところからやってきた人は、一度挨拶をしてから別れるのが、人としての正しいあり方であろう
- ④ 遠く離れたところからやってきた人に、一度挨拶をするだけで別れるのは、人としての自然な感情だろうか
- ⑤ 遠く離れたところからやってきた人に、一度も挨拶をすることなく別れるのは、人としての正しい感情ではない

問七 傍線部分(8)「絶人逃世、情所不安」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 人との交際に絶望し世情から逃げて行こうとすることは、心の不安定な人間のすることである
- ② 人との交際がいやになり世の中から逃げて行った人は、情緒不安定になってしまうものだろうか
- ③ 人との交際を絶ち世間から身を遠ざけてしまうことは、人間の感情として落ち着かないものである
- ④ 人との交際が途絶えて世間から離されてしまったら、人間の感情はどれほど不安になるのだろうか
- ⑤ 人との交際をやめてしまい世間から離れて隠者となるのは、人間の感情としてあこがれるものである

問八 本文に従えば、贈り物とはどうあるべきなのか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 贈り物は公の場合でも私の場合でも必ず賄賂と見なされるものであるから、絶対に贈ってはならない
- ② 国家間で使者が贈り物を贈り合うのは礼であるが、それ以外は賄賂になるので贈ってはならない
- ③ 公でも個人的でも人との交際で贈り物をするのは礼儀だから、たとえ節度を超えても必ず贈るべきである
- ④ 個人の間で贈り物を贈り合うのは人間の自然な感情であるが、公の場合では賄賂になるので贈ってはならない
- ⑤ 人と交際するために、人間としての自然な感情に従い、礼にかなった節度ある贈り物であれば贈ってもよい